

第12回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会

1. 日 時 令和6年7月31日 水曜日 17:00～18:30
2. 場 所 中央区文化センター1112会議室
3. 出席者
 - 委 員 松田委員長
高見沢委員、船山委員、松山委員、丸山委員
 - 看護大学 北理事長、江川学長、永田本部長 他
 - 事務局（神戸市） 健康局 花田局長、三川副局長、梅澤病院等調整担当課長 他

開会

4. 議事

- 第2期中期目標（案）に係る市民意見募集結果について
- 令和5（2023）事業年度業務実績に関する評価について

（第2期中期目標（案）に係る市民意見募集結果について事務局から説明）

○委員

（3番に関しては）生協の開店時間は長いと便利ではあるが、おのずと成果を考えないといけないので神戸市の考え方は妥当だと思います。（4番の神戸市外国語大学との合併に関しては）大阪大学は、大阪外国語大学と合併して10年くらい経っていると思いますが、効果があったのでしょうか。この4番に関しては参考にできると思います。（5番に関しては）意見としては、東京や外国を想定した提案だと思いますが、市の回答は大阪とか近郊のことを想定しているように感じられ、ちょっと提案と答えの内容がかみ合っていないと思います。

○委員長

この市民パブリックコメントに対しては、回答の方が確かにちょっとマッチしてないと言われそうな回答ではないかと思います。（４番に関しては）これは、単科大学の難しさと、総合大学という議論をしているのですが、ずっと課題であると思っています。

○事務局

中期目標の案につきまして、前回の評価委員会からの変更点をご説明します。

（中期目標案の変更点について事務局より説明）

○委員長

今説明のあった中期目標案の修正について何か委員の方ご意見ございますか。

（意見なし）

○委員長

それではこれで了承いたしました。次に、大学から2023年度の業務実績並びに財務諸表等について説明をしていただきその質疑を行います。

（令和5（2023）事業年度業務実績について看護大学より説明）

○委員

優秀な学生の確保の点では、取り組まれている病院訪問や、高校訪問も非常によくやられている。私自身もSに相当する実績を上げておられるのではないかと思います。

○委員

研究倫理の確保についてですが、実施状況に「申請された大学院生の47.8%」と書かれています。看護系の大学院ですので、ほとんどが人間を対象にしている研究を行っているのではないかと推測するのですが、人間を対象にしていたら、医学系の場合は倫理審査を受けることになっているので、この47.8%というのは、新しい申請手続きの周知が十分ではなかったのかもしれない。学生がきちんと守らなければいけない内容として、履修要綱等への記載を

検討いただけないでしょうか。

○看護大学

今ご指摘いただきました47.8%といたしますのは、一度審査をして、修正をして出てきたものが承認されなかったパーセンテージとなります。審査の申請の手順だとか、その手続きに関しましては、ホームページにもきちんと周知をしておりますし、便覧の中にも記載はしております。

○委員

大学院生が倫理審査に関して注意すべき内容の周知が、もう少し詳しく具体的に必要であるという課題なのですね。大学院生は23件申請があったそうですが、こちらは研究計画書を提出する学生の全員が申請していただいている状況と理解してよろしいでしょうか。

○看護大学

はい。全員から基本的には申請をしていただいているという理解をしております。

○委員長

全てが倫理審査をしていたと理解していいのですね。研究計画書の初回承認7割というのが数値目標ですが、今回は5割程度だったということですね。ちょっと説明が不足しているので、直せるところは直してください。

○委員長

外部人材の活用は新規科目が増えなかった。寄附講座というのは、現実には数でいうとどうなっているのですかね。現状、寄附講座は今いくつありますか。

○看護大学

中期計画の中には、外部資金の活用による寄附講座の設置というように書かれておりますが、寄附講座という名前の付くものはございません。実際には市民病院等から、ファシリテーターとして技術研修だとか、学内の授業に講師として来ていただくというような形をとっており、寄附講座自体は現実的には難しいというところ

がございまして、現状ではゼロというところでは。

○委員

内部統制の不備を臨時監査されて指摘されたので、プロパーの職員を採用して強化していくというようにおっしゃっておられたわけですが、（財務諸表の）職員の部分を見ますと、常勤の総額が194,278,347円、非常勤が17,953,065円で、人数は33人と30人ということで、確かに金額でいきますと常勤の金額というのは、（前年は）2,000万円ほど少なかったですね。非常勤の方は前年が2,600万円で少なくなっているということで、非常勤を少なくして常勤を厚くしたというように数字の上でも出ております。方針を決められた内容が人件費の支出金額でも裏付けられているというように思いますので、職員の方はそれでよいのですが、教員の常勤は（前年と比べて）4,000万円減っています。非常勤は今回5,000万円、去年は2,600万円で約半分だった。職員の方は常勤を厚くしまして、管理を強化したということで、人件費もその通りになっているのですが、教員は常勤を減らして非常勤を増やしたようなことになっています。教学を強化しようとする、常勤を増やして非常勤を少なくする、というように傾向としてはなると思うのですが、その逆になっています。不本意で常勤を少なくされ、その不足分を非常勤で補われたということなのか、方針によってしたのかどちらでしょうか。

○看護大学

教員の常勤が減りましたのは、休職者が発生しているということではございます。これは大学にとっても課題だと認識しているのですが、休職者が出た場合は、非常勤の教員で対応ということになりまして、それが決算額に反映されています。

○委員

不本意ながらそうなったということで、次年度以降常勤を厚くして回復したいということですね。わかりました。ありがとうございます。

○委員長

財務諸表のところでは質問なのですが、損益計算書で、当期純利益619,000,000円ですかね。この臨時利益って何ですか。

○看護大学

臨時利益ですが、2022年に会計基準の変更がありました。それに基づきまして、元々損益計算書上に記載してあった金額を、そのまま一旦収益として受け入れるという形で、損益計算書に反映するよう指導がございまして、その反映をしたのがこの結果になっているという状況です。今後、償却資産が出てきた場合に、減価償却費が発生しますのでそれに充当する財源ということで、損益計算書に計上しているということです。今後の減価償却費に充当するべき財源ということになります。

○委員長

大学の方から何か付け加えて、説明する必要があったら言ってください。

○看護大学

小項目評価の25ページになりますが、法人評価ではAということにさせていただいているのですが、評価委員会案としましてはBとなっております。その理由は実績です。新規の申請の割合が、目標値が65%以上というところが26.9%だったということで非常に低いということからB評価となっております。低い一つの理由は、教員の常勤の給料が低いという理由で休職者が増えているということがあり、休職者が増えると、アルバイト・非常勤を雇うということになります。非常勤を雇った時に、途中で非常勤の教員が交代になったりしますと、再度オリエンテーションをするなどの手間がかかり、教員がそれによって非常に疲弊しているという状況が生まれております。それによるこの新規申請率の低下というように考えております。ご覧いただきたいのは、新規採択率の目標値は27.9%以上ということですが、申請をした部分の採択率は6割近くという実績がありますので、この部分はもう少し評価していただければというのが、学長としての思いということでお伝えさせていただきます。

○委員長

それではそれなりの事情があったと思いますが、大学の方々は一度退席していただいてよろしいでしょうか。

(看護大学関係者 退席)

○委員長

委員の方、何かご意見ございますか。

○委員

看護人材の確保については病院との提携とか病院訪問とか高校訪問とか非常によくやってらっしゃると私は思います。4倍以上の倍率で学生が応募してくれてきますし、市内就職率も65%確保されていて、大学の努力が大きいのではないかと思います。業務運営については、内部通報制度確立の完成年度は令和7年度となっていますので、5年度は規則等を整備されると、去年おっしゃっていたのですが、それはまだ進んでないような感じですね。完全な内部統制システムの完成の進捗については、着手されてないということではないですけども、実際に計画されているスケジュールから行くとちょっと遅れ気味じゃないでしょうか。本格稼働、システムの開発なども言われているので、内部統制システムの構築についての進捗というのは遅いように思います。

○事務局

昨年度やった取り組みとしては、内部通報、公益通報制度を作ったっていうのが一つ実績としてはあります。今年度は、委員が言われたような項目について取りかかっているその最中でございます。進捗の記載まではできていない部分があります。

○委員

全くほったらかしではないのはわかったけれど、これはちょっと大事なことから、市の方で考えて、補足するか全体評価に記載してください。

○事務局

45ページの自己点検評価による質の改善のところの、③の自己点検のところをもう少し詳しく書くようにします。もともとの経緯と、どういうスケジュールで、今どこまでできたのかっていうことをここに詳しく書くようにしたいと思います。

○委員長

はい、お願いします。他に何かございますか。

(意見なし)

(事務局より全体評価案の説明)

○委員長

「卒業生にLINEを活用した教育プログラム等」という表現は次元が低い。何かもうちょっといい言葉はないですか。あとは「働き方の改革の推進として、学内会議の見直し、会議録の簡素化」とありますが、これは働き方改革ではなく事務の効率化ではないですか。最後に「働き方改革により一層取り組まれたい」とあるが、ほとんど取り組みをされていないので、働き方改革は記載せず、内部統制を先ほど言われたようにもうちょっと書く方がいいと思います。

○委員長

それでは、看護大学に入室してもらいましょう。

(看護大学関係者 入室)

○委員長

委員会としては文言のちょっとした修正はございましたけれども、基本的には評価はそのままで、修正なしということになりました。評価案通りということで、委員会としては決定いたしましたのでご報告いたします。この評価結果につきましては、後日評価委員会を代表して私の方から設立団体の長へ報告させていただきます。

それでは、次に利益処分についての説明をお願いします。

(利益処分について事務局から説明)

○委員長

利益処分の説明について何かご意見はございますでしょうか。

(意見なし)

○委員長

それでは指摘部分については、今後の大学運営に活かしていただきたいと思えます。予定しました議題は以上ですが、委員の方々から他にご意見とかご提案とかございましたらお願いします。

(意見なし)

○委員長

それでは、これで終わらせていただきますので、事務局からお願いします。

○事務局

今回の評価委員会をもちまして、松田委員長と船山委員が任期満了に伴って退任されるということになりました。長きに渡りまして神戸市看護大学の運営と神戸市の地域医療施策につきまして、ご尽力いただきましてどうもありがとうございました。最後にお2人から一言ずつご挨拶の方をお願いしたいと思います。まず船山委員の方からお願いいたします。

(船山委員よりご挨拶)

○事務局

それでは松田委員長よろしく申し上げます。

(松田委員長よりご挨拶)

閉会

○事務局

どうもありがとうございました。それではこれをもちまして神戸市看護大学の評価委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。